

福徳新聞

(毎月七、音)二回
定額五圓
廣告料 雑報欄五十錢増
發行所 福徳新聞社
市島 三
電話九九九番

和洋銅鐵
金物問屋
釜屋商店
電話九九九番

本郡縣會議員 政友會候補者 (一)

來る九月二十五日執行する
べき縣會議員選舉に付ては
政友會各々多數議員を得
んとて縣支部の幹部は東
西走郡部會に對し秘策を
授け其暗中飛躍は驚く外
なきのである。而し本郡に
於ける政友會の候補者は
伊藤淺之助に第一指
を折られて居る全君は舊政
友會唯一の人物たるのみ
ならず現今の同派に於て
見逃すべからざる適當な
候補者である。唯運動費の
支出如何を頭痛して居る
人もあるが井上氏出でず
鈴木氏又出馬せざるも
是非共氏の出馬は確的
のである。小野晋平
君小名濱の築港が頓坐し
名濱の興亡危急に直面して
肌抜かしたまき全町の希望
はやがて氏の諾否にかゝる
は候補者として現るべき
は必然の結果である。

兒玉萬平君

郡南の豪家として又多年公
共事業に貢献したる郷土の
人物として名聲噴々たるも
のである。郡南は本郡に於
て無風地帯でなくとも安全
地帯である。氏が出馬すれ
ば逐鹿の得物は必ず氏の掌
中にあるのである。其他政友
會として

山崎登君
關内正一君
加藤丈夫君
田子健吉君
島田兼吉君

商業發展唯一の機關 平信用組合の成績

平町商業發展の機關たりし
に於て獨り空谷の梵音と
警城、磐越の兩銀行既に破
産の宣告を受け其他の支店
銀行は其使命たる預金の集
收にのみ没頭しなきたに
殺人的不景氣の影響を受け
て平町は勿論石城全部の實
業家は全く青息吐息の慘狀
が自覺して組合を利用して

如何によるのである。然も
組合長としては多年名郡將
として經驗ある青沼氏あり
専務には學識豊富にして人
格高き三森氏あるのである
組合員は安心して同組合の
發展に勉むべきである。世
間で嫉妬さしむるの組合員
左の如く縣下でも優秀の成
績である。

平青年團長の の交迭

平町青年團長陸軍歩兵中尉
藤田榮助氏今回平在郷軍分
隊長に就任したため團長
後任として推選せられた副團
長には金成泉一郎氏後藤桂
仙兩氏就任したるが何れも
有爲の活氣満々たる青年諸
士にして此の好幹部を迎へ
たる平青年團の前途の發展
は洋々として春海の如くなる
べしとて多大の期待を以
て迎へられてゐる。

清野女史の名譽 有功章親授せらる

平南町平看護婦會長

清野キヨ子女史は産婆看護婦
會第三十回通常總會
婦を養成して單に斯界に貢
獻あるのみならず又多年社
會公共事業に奉仕し殊に愛
國婦人會に對しては是迄
身的に同會發展のため盡力
したる旨を以て本月六日東
京市にて開會せられたる愛
云ふべきである。

四聞八觀

風薫る新緑五月、近き春
の名残を惜みつゝ、「目に
青葉山ほととぎす初松魚
の時が来た。」
然し世は尙不景氣の憂鬱
が漂ふてゐる。内閣が改
造されて何んだか少し前
途に希望が見えたやうだ

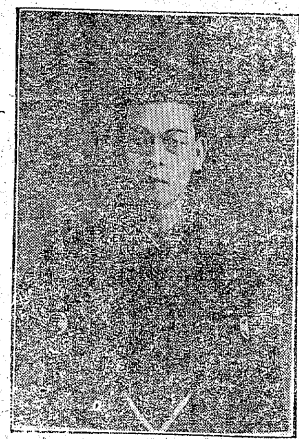
井坂醫院の醫業

平田町電話五五九番

石城郡湯本町の名門家に中央地方の一流病院に於て
して同町消防組頭井坂千代研究すること十年今回平
松氏の二男井坂久吉氏は警町有志の懇請を請して田町
城中學校を卒業して大正十元合津醫院跡に開業し産科
一年東京醫學專門學校に學婦人科花柳病科専門になつ
び同校卒業後東京順天堂病方患者に接することになつ
院日本赤十字病院に於て婦科が氏の如き名醫の開業は
人科花柳病科を専攻し郷里患者としては何よりの福音
の入院病院にも奉職し斯くたるべし。

法曹界の新鋭 眞木桓君

眞木桓君は警陽法
曹界に於ける新鋭
として弱者の味方
となり人権擁護の
ため健闘しつゝあ
る。君の祖父は有名な
漢學者眞木水竹先生にし
法曹界の最新人として名聲
を松岡公園内にその記念
碑がある。一度弱者の味方
として神聖なる法廷に起つ
やその明快なる辯論は法廷
を謹聴せしめる、今や警陽
多趣味の人である。



加藤丈夫君

君は石城に於ける貸家王その性格親しみを感ずる平
として幾百の借家人から慈民主義の實行者である。
父の如く尊親せらる。
日常生活極めて簡練にし
て自轉車に跨り東西奔走し
て席温まる暇がない。

近時平の新聞紙を賑はし
て居るのは石城民政黨の
本山争である。純理論か
ら言へば野崎派の勝利であ
つて、選挙の實際から
見れば比佐派の大勝であ
る。然し比佐派の進退去就
は須らく公明正大でなければ
ならぬ私情や感情に
促はれては駄目だ見つと
もない泥試合を早く止し

松本樓の好評

電話一三三番

地方の幸福と云ふべし。
今や内郷村々會議員として
村治の爲めに奉仕しつゝあ
る君は圓滿なる性格の持主
にして思ふ所忌憚なく表現
し人に對して城府を設けず
坦懐以て人事を處理する
百千の味方を作れども一
人の敵を作らず、やがて大
衆に擁立されて縣の議政壇
上に君の雄姿を見るの日も
夫れ遠くはあるまい。

松本樓

電話一三三番

増田醫院の開業

平南町(元眞木辨護士跡
に今回開業せる日本醫學士
増田之氏は曾て日本醫學專
門學校を卒業し耳鼻科咽喉
科氣管食道科を専攻したる
温和なる好紳士にして入山
病院に奉職して好評噴々た
りしものであつた、氏が多
年鍊磨せる靈腕を揮ふて患
者を視る事となつたのは當
を促した、從順なる紳士
は直ちに脱帽して呉れた
が彼の頭はさしづめ長髯
に特派するに適當する井上
茂作氏以上の光頭代表反
つて居るを被つた、座
は舞臺が一向に見えない
田舎者も一代の勇氣を出
して誠に恐れ入りますが
と前提して僕は彼に脱帽

良品の普及に國境なし
健康増進病後の回復等
まじのエキス 酒 四
養命 命 三
スツボン 二
安ッポシの妙藥 一
諸毒下しの妙藥 一
以上優良品として御勧め
致します
平町五丁目
角總代理店
山野邊藥局
▲藥事衛生の御相談は是非
弊藥局へ

事業と人物(上)

鐵工業界の覇者

河田梅吉君

石城に於ける鐵工業界の覇者として氏は業界の王座にある...

苦闘の立志傳中の人物である。

今や財界は深刻なる不景氣の怒濤に襲はるゝと雖も氏は飽くまで堅忍不拔の猛意を振つて事業のため奮闘してゐる。

一見すれば冷静なる態度を持すれども内面に燃ゆる熱血は高揚してやまぬ熱血男兒の面影がある。

東北一流金物店釜屋商店をバックとして事業の羽翼を張り各方面に良き得意先をもつ。

御料理 越家

通岸川町平 番〇三三話電

かねて出版準備中であつた山田緑雨君著『緑雨小集』は、いよいよ最近出版される事になつた。

祝福總新聞五週年

小野新町々長 小泉音七

郵便局長 宗像清

小野新町一業組合

郡山市 根本祐太郎

郡山市 津野喜七

郡山銀行組合

内科。小兒科。外科。

野村醫院

双葉郡廣野村折木

鑛泉旅館 若松屋

●新築落成致しました御客様本位

双葉郡廣野村折木 鑛泉旅館 本湯仲屋

●眺望佳絶廣野驛より自動車の便あり

双葉郡廣野村折木 鑛泉旅館 鶴屋

石城郡 玉山 鑛泉旅館 藤屋

石城郡 玉山 鑛泉旅館 石屋

●眺望佳絶四ツ倉驛前より自動車の便あり

福島縣平町白銀町 河田鐵工場

河田鐵工場

電話三三九 二五九番

平町紺屋町

吉田科眼病院

電話六八番

平町本町三丁目 大尖 治勝屋黒大尖 番六一一話電

醫院開業

●午前宅診 ●午後往診 産婦人科 花柳病科

井坂醫院

平町田町舊(合津醫院跡) 電話五五九番

開業廣告

私儀今般五月五日より左記箇所に醫院を開業耳鼻咽喉科診療に従事可致候間將來何分の御後援に預り度く御挨拶傍々御願ひ申上候 敬白

診療科目 耳鼻咽喉科 氣管、食道科 専門

増田耳鼻咽喉科醫院

平町字南町一(元眞木辯士跡) 本醫學士 増田

警共濟病院 新任院長 石山博士來任 每日診療に従事す 昭和六年四月

四十歳前後から 危い丸木橋を渡りつゝある 中風患者 一步を誤ると暗い淵へ落ちる 至急安全治療法

石山兼郎 敬白 望に不堪候

腦の血管が硬化して居る何の分るか、この中風根切薬... 中風患者の救済法

衛生試験所 技師 藤慶造 技師 山謙郎 技師 後利雄

高久病院 平町田町 電話五二三番 内科小兒科 外科花柳病科

本院主幹 賀澤忠治 本院主幹 岡本孝平

高久病院 平町田町 電話五二三番 内科小兒科 外科花柳病科